

過去・現在・未来への連続の時の流れの中で、地方の時代に相応しく、地域の文化向上に、本会が大勢の仲間とともに(会員募集中)、必ずや貢献して行くものと信じています。

「野間清治顕彰会だより」の 創刊に寄せて

—— 講談社社友会会長 ——

須藤 博



「世界の平和は人類一人一人の心の中にある。読書推進運動はその心の出発点である。」

桐生市出身であり、講談社創業者の野間清治初代社長を顕彰する「野間清治顕彰会」は、河原井源次名誉会長(初代会長)、森野作会長(前、副会長)、岡田一男事務局長(現、図書館長)、奈良彰一理事(現、事務局長)を中心とする市の有力者の皆様方のご発案により、平成九年春に結成されました。

もと、平成十年十一月三日、桐生市立図書館前庭に「野間清治顕彰碑」が建立されました。更に平成十一年五月に桐生市の新市長に就任された大澤善隆氏は、顕彰会を協力的にバックアップし、顕彰会活動の中心である読書推進運動を、新しい市民運動として発展させたいと表明されました。また、桐生市と講談社、社友会有志の会三者の絆も深まり、「野間清治と少年倶楽部」講談社の絵本展などのイベントや、一流作家の文化講演会など、地元桐生市で数多く開催されています。更に講談社の見学に桐生市民の方々が参加されたり、十月十六日の野間清治命日の祝賀式に講談社や社友会の代表が参列したりと、三者の交流も盛んになつて参りました。

一方、当会の主要な運動である読書推進の運動に目を転じますと、この十数年間の世の中の進展はめまぐるしいものがあります。まさに世紀末から新しい世紀への変革そのものでした。特に情報伝達手段の変わりようには目を見張るものがあります。しかし同時に心の荒廃も見逃すわけにはいかない状況にあります。情報伝達手段が如何に進歩しようとしても、それによって世の中が豊かになるわけではありません。人の心の問題こそが肝要なのであります。そこで情報伝達手段が進めば進むほど、言い換えれば文明が進めば進むほど、読書推進運動の重要性が指摘され、社会的にもその運動が高まりつつあります。イギリスでは赤ちゃんの時代から本に親しませる「ブックスタート」運動が全国的に広まり、日本でも確実にその根をおろしつつあります。

こうした情勢を考えると、その運動の重要性が今更なるように、私たちの心に訴えてくるのであります。「野間清治顕彰会だより」発刊を機に、当会から読書推進運動が人類究極の目的である、世界の平和に通ずるものであることを発信していきたいものと熱望いたします。

「ふるさと」の風、野間清治顕彰会だより」の発刊、心よりお祝い申し上げます。この広報紙が、会員各位の交流の大切な役割となるよう強く企願しております。

私は若いころから「陽気に元気に生き生きと」という世帯紅緑(戦前の昭和期に活躍した少年少女小説の作家で、熱狂的な読者が多かった)の言葉に励まされて、今日まで頑張っております。

この世帯紅緑の小説が連載されたのが、少年倶楽部という雑誌でした。そしてこの少年倶楽部を発刊して、全国の少年に大きな夢をプレゼントしたのが、桐生で生まれた野間清治でした。

桐生で生まれた野間清治は苦学力行、幾多の試験に打ち

野間清治顕彰会の創立と発展

—— 野間清治顕彰会名誉会長 ——

河原井 源 次



勝つて講談社を創立、「日本の高麗王」と称せられました。

郷土の偉人、野間清治の名が永い間、市民から忘れられていることに気づいた私は先輩や友人たちのご指導とご協力を願って野間清治顕彰会を結成して、顕彰活動の推進を図りました。

幸いに野間家や講談社の皆様から温かいご支援を願って、平成九年三月二十六日に桐生倶楽部で多数の関係者や会員の方のご参加を以て、めでたく野間清治顕彰会の発会式を挙げる事ができました。

同年五月一日から会員や賛助会員の募集を開始、活動を展開しました。

平成十年十一月三日の朝香

る文化の日に、野間清治の書を贈りましたが、野間清治顕彰会が、中央公民館の前庭に建立され、多くのご来賓のご出席を願って、除幕式を盛大に挙行しました。

この顕彰碑建立に当たり、講談社関係の皆様からお寄せ頂いたご協力に付しまして、改